

▼日程第1 一般質問

〔今泉藤一郎議長〕日程第1 これより前日に引き続き、一般質問を行います。9番議員 原田一宏君。

〔9番 原田一宏君〕皆さんおはようございます。議長より許可を得ましたので、9番 原田一宏、通告に従い一般質問させていただきます。私は、1. 令和6年一般質問における答弁の検証と今後の対応について。2番目として、災害対応についての2点について質問いたします。まず、1. 令和6年一般質問における答弁の検証と今後の対応についてですが、特殊詐欺を3月にしました。まず、交流サイトSNSを介した投資詐欺、恋愛感情に乗じたロマンス詐欺、特殊詐欺の被害総額が2024年は、全国で、前年比2.19倍の約2,000億円にのぼり、特殊詐欺は約269億円増の約721億5,000万円、投資ロマンス詐欺は約821億8,000万円増の約1,268億円で過去最高となっております。県内でも詐欺被害総額は約10億円以上になっている状況であります。最近では、オレオレ詐欺や偽電話詐欺がまた増えてきているとの調査結果も出てきているようです。そこで令和6年有田町内の被害総額と、詐欺被害の相談件数はどうなっているかをお伺いいたします。

〔今泉藤一郎議長〕住民環境課長。

〔淵住民環境課長〕町の消費生活相談窓口で受付をした令和6年度の相談件数等についてお答えいたします。町は消費生活相談業務を委託しておりまして、毎週火曜日と木曜日に専門の相談員が町民の相談を受け付けております。令和6年度の相談件数は、2月末現在で63件、そのうち特殊詐欺に関する相談件数は4件となっております。相談内容については守秘義務がありますので、詳細は言えませんが、内容としまして、ロマンス詐欺、架空請求、不審な電話等に関する事案でございます。

〔9番 原田一宏君〕被害というのは、あっておりますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕住民環境課長。

〔淵住民環境課長〕被害もあっております。詳細については守秘義務ということで、すみません。

〔9番 原田一宏君〕わかりました。注意喚起として詐欺対応の出前講座や国民生活センター提供の注意喚起情報をお知らせしているほか、年金支給日や消費者月間における詐欺防止の啓発チラシの配布やホームページの注意喚起を行っているとのことでしたが、これらの他の対策は何か取っていらっしゃるかどうかお伺いをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕住民環境課長。

〔淵住民環境課長〕 そのほかに庁舎の待合スペースにおいて、全国の消費生活センターなどに寄せられている最新情報の発信や相談窓口の紹介、出前講座の案内などを行っております。また先週、住民環境課においても不審な電話がかかってきました。町内においても同じような事案があるのではないかと思います、対応としまして、来客の多い確定申告を行っている場所に注意喚起のチラシを掲示したところです。

〔9番 原田一宏君〕 今、課長が言われましたけれども、県では、佐賀県消費生活センターで消費者トラブル等の相談を受け付けており、町でも、今、課長が言われたように、消費生活相談窓口が火曜、木曜に相談を受け付けております。火曜、木曜以外でも町民の相談窓口として、情報収集の意味でも特殊詐欺等の相談専用窓口を設置した方が良いと考えますが、この点についてどのようにお考えになっているかお伺いをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕 住民環境課長。

〔淵住民環境課長〕 現在、町の消費生活担当は、他の業務と兼務しているものが1名おります。情報専用窓口の設置については、担当職員は消費生活に関する簡単な内容については町民の方へお答えができますが、相談については専門の相談員へ相談を行い、消費者トラブルの解決に向けて各種アドバイスやあっせんを受けて頂くことが良いと考えます。

〔9番 原田一宏君〕 難しい点も多々あると思いますが、被害を未然に防ぐ意味でも窓口の設置や職員の対応の拡充の方をよろしくお願いいたします。この画像ですが、これは、佐賀県警からのホームページで持ってきたものですが、この真ん中の方に海外との電話等で不要な方は発信着信を無償で休止できます。今すぐお申し込みをとあります。最近では、タイとの国境近くにあるマンション東部の複数の犯罪拠点で多くの外国人が集められ、特殊詐欺に関わっていたことが明らかになり、詐欺拠点では監禁された状態で特殊詐欺のかけ子として、詐欺行為を強制されていたようです。そういう場合でもここに書いてありますが、プラス1やプラス44などから始まる番号は外国からかかってくる電話ということで警察の方でもこのようなチラシを配布して注意喚起を行っている状況であります。また、NTTでは、特殊詐欺対策サービスの無償化として、特殊詐欺対応アダプターがありましたが、この撃退装置と同じような装置がホームセンターや家電量販店、インターネット等でも販売されております。装置の性能にもよりますが、7,000円から2万円程度で購入できます。NTTのアダプターの貸出申し込みは終了しておりますが、市販のアダプター購入助成等は考えられないでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 住民環境課長。

〔淵住民環境課長〕電話での詐欺は手口も巧妙化、複雑化しておりまして、高齢者に限らず多くの方が被害に遭う危険性はあると思っていますが、現在のところ補助については考えてはおりません。あらゆる機会を利用して周知に努めたいと思っています。

〔9番 原田一宏君〕考えていないということでしたが、今課長言われたように、周知徹底をして被害が少ないようにしていってほしいと思います。特殊詐欺は、手口も複雑、巧妙、悪質化しており、被害者にはお年寄り、家庭の主婦などをはじめ、その範囲も広がっております。未然に防ぐためにも更なる町民への啓発と周知の程よろしく願いまして、次の質問に移ります。2番目として、人口減少対策、6月でしたけども。厚労省が今年2月27日に発表した令和6年の人口動態統計速報では、外国人を含む国内の出生率は過去最少の72万988人で、今年6月頃に公表される令和6年の日本人のみの出生率は70万をはじめて割り込み、合計特殊出生率も過去最低だった5年の1.20を下回る可能性が高いようです。死亡数が出生数を上回る自然減も89万7,696人で、過去最大となっており、政府は人口減対策は2030年代に入るまでがラストチャンスと位置付けておりますが、少子化の加速には歯止めがかかっていない。想定よりも15年早いペースと報道されました。有田町でも出生率は、令和2年114人、令和3年101人、令和4年95人、令和5年85人、令和6年82人と減少している状況です。そこで、人口減少の対策ですが、①他市町との差別化。6月議会で大町町のパンフレットを引き合いに出し、大町町の子育て支援であったり、移住定住であったり、各種支援を盛り込んだわかりやすい、そして見やすいパンフレットの話をしました。有田町でも各種支援策は多々あるとホームページにも出ておりますが、いかんせん見づらいというか、インパクト的に弱い感じがしました。そこで町として人口増につながる何かインパクトのあるチラシの作成や情報アップの対応はされているかお伺いをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕町のホームページにつきましては、トップページの方から子育て支援サイトとありた暮らし、有田移住定住サイトに入れるようにして利便性の方を高めております。また、議員さんの方から提案のあったパンフレットにつきましても、わかりやすい形で、有田町移住定住子育てガイドブックを作成して、役場の窓口や移住相談会等で配布を行っております。

〔9番 原田一宏君〕実際ホームページにも見やすくなったような感じもしましたので、そういうことをやっておられるということは一歩進んだかなと思いますので今後ともよろしく願いをいたします。6月議会で、他市町との差別化を図るということで、日々の努力、研鑽が必要と、副町

長が答弁されましたが、どのようなことをされたか、また、進行形は、そして予定として考えることがあったら伺いしたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕 副町長。

〔福田副町長〕 人口減少対策に対する日々の努力ということでございますけれども、基本的に差別を図るということは、他との差を明確にして自分のところの製品、あるいはサービスが他のところの製品またはサービスに対して優位であるということを示すことだと思っております。そういう意味で、何か他の自治体に先駆けて新しいことをやりますと、その段階では確かに差別化が図られていると思います。しかし時間が経過をいたしますと、どうしても他の団体の追随がありますので、そうなりますと差別化が図られているという状態ではなくなってくるという意味で日々努力、新しい事業、金額の増額とか、そういうことをやっていかないといけないということを6月議会で答弁したところでございます。現に私がやっていることといえますと、新聞雑誌等に目を通して情報収集を図ることはもちろんのことではございますけれども、今、時事通信社が配信しております、自治体職員向けの官庁速報というメールサイトが、情報サイトがありますけれども、その配信が朝、昼、夕、ありますので、この情報に随時目を通すということ、そしてまた情報、自治体向けの職員向けの情報雑誌「ガバナンス」というのがあるんですけども、これ月刊誌でございますけれども、ここに目を通して、常に新しい事業ができないのか、他の自治体でこういうことをやっているのかということに目を通して日々何かできないかということを考えているところでございます。最近は何か新しい給付事業、特にサービスをやりますと、ニュースにはなります。ただ、ニュースになったからといってそれで良いというわけではなくて、そのニュースになったことがその事業がどういうふうな事業効果を生んでいるのかということも含めて検証していく必要があると思っております。そういう意味で、こういう事業は日々努力をしていかなければならないと思っております。以上です。

〔9番 原田一宏君〕 日々の努力大変だと思いますが、課内、課長さん達をはじめ、副町長の手腕にかかっていると思いますので、ぜひともよろしくお願いいたします。続きまして、3番目、地域みらい留学ですけれども。地域みらい留学も丸3年を終えようとしており、初めての卒業生も出ます。来年度で4年目となりますが、来年度の状況はどのようなになっているか、わかる範囲で答え願えますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕 有田工業高校への来年度の地域みらい留学の状況になりますが、昨年の8月

と10月に行われたオープンスクールの方には、合計で9名の参加がっております。現在の志望状況とか結果につきましては、入試が終わったすぐでまだ結果が出ていない状況なので公表されておられません。

〔9番 原田一宏君〕昨日、一昨日ですかね、入試があつて、その結果を踏まえたところだと思いますけども。ところで、その卒業生が出るとさっき申しましたけども、卒業生の進路等は把握されておりますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕今年度卒業される方は1名いらっしゃいますが、ちょっと進路についてはですね、個人情報等ありますが、一応進学という話は聞いております。

〔9番 原田一宏君〕わかりました。次にですね、白川に男子生徒用のシェアハウス、外尾山に女生徒用のシェアハウスがありますが、最近外尾山の女子生徒用のシェアハウスに寮母さん、ハウスマスターさんが居住されたと聞きますが、どのような状況になっているか伺いをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕令和5年度に県と町の方、補助金でですね、民間が整備したシェアハウス、これの現状になりますけど。一応、地域みらい留学生が1名、それとハウスマスターの方が1名入居しています。

〔9番 原田一宏君〕今後、女生徒が入るかどうかは入試次第ということですので、そこら辺のなんですか、生徒たちが入ってきたら生活しやすいような環境を作っていければいいのかなと思っております。続きまして、現在、地域みらい留学の学生に対し月額3万円の支援がなされておりますが、留学生がもっと地域となじむために、県や町、高校、学生、地域が協力して交流を深めていかなければならないと考えます。何かしらの交流について把握していることはありますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕高校生の地域との交流状況につきましては、有工の方でも地域みらい留学生に限らず1～2年生を対象に有田町を学ぶ地域学習の取り組みの方を行われています。また、有田陶器市やアリタマシュマロクリスマスイベントでのアルバイトに参加するといったような活動もされております。こういった形で学校行事としての地域の交流は行われております。また、来年度はですね、有田町の方で開催する合同企業説明会の方に、有田工業高校の生徒の方も参加できるような形を今、話を進めております。他にも地域団体、有田みらい相伝舎様が県の補助事業

を活用して実施した食と器の文化を伝え、地域と若者の未来を活かすといった事業で行われたイベントにも招待されるなど、学校外での地域との交流活動の方も行われております。以上になります。

〔9番 原田一宏君〕ただ単に、留学生に対し支援金を出しているだけではなくですね、もっと積極的に交流を深められないか、課長今いろいろ言われましたけれども、皿山まつりの踊りに参加するとか、地域行事に参加してもらうとか、そこら辺を踏まえて県・町をもっと知ってもらうような策を講じるなどしていかなければ本来の地域みらい留学の趣旨に外れるような気がしてなりませんので、今課長言われたようなことをプラスアルファ、他のこともいろいろ行って地域との交流を深めていってほしいと思います。続きまして、SAGA2024国スポですけども。国スポも無事終了して国スポの開催というものが今後いつになるかわかりませんが、町内開催の点での反省というものなどがありますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕生涯学習課長。

〔千代田生涯学習課長〕大会実施に関しましては、特に反省事項等はありません。ただ、期間中を通じまして、多くの役場職員の協力をはじめ、関係団体、ボランティア団体の協力等を得て盛会のうちに終了したということで考えております。今後につきましては、各種イベントの実施や各事業において今回の国スポでの経験を活かしていければというところで考えております。

〔9番 原田一宏君〕ありがとうございます。有田町開催推進総合計画の施設というと、8番、施設というところですね。国民スポーツ大会開催基準要綱に沿ってされている施設基準を尊重し、既存施設の有効活用を図ると共に、国スポ開催後の町民利用にも配慮した整備に努めると謳っております。ウエイトリフティングは焔の博会場でしたけれども。昨年、一昨年ですが、一昨年はプレ大会があり、全国より参加者がありました。今後は、九州大会とか高校総体の県大会など県内外からの参加者を呼べるように機材等はレンタルになると思いますが、できないか。また赤坂球場もですね、現在多くの野球大会が行われておりますが、更なる野球大会の開催やほかの競技にも利用できないか、協議してみてもと思いますが、利活用という点でその2つの会場どのようにお考えでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕生涯学習課長。

〔千代田生涯学習課長〕今、申されました、歴史と文化の森公園焔の博記念堂と、赤坂球場に関しましては、日本ウエイトリフティング協会、また全日本軟式野球連盟等の指導の下、改修せざるを得ないところは整備をいたしました。今後につきましては、国スポ、前と同様に町民をはじめ施

設の利用者が利活用しやすい施設として維持管理を行っていくこととしております。

〔9番 原田一宏君〕 よろしく願いいたします。次、2番目ですけども、何もあらへんなど言われた、駅前の活性化ですけども。国スポに限らず通年観光も踏まえた駅前の賑わい対応もしたいと町長は述べられました。一昨日の3番議員さんの質問と被りますが、町長は、民間、地域で盛り上がり頂ければ駅前活性にも活用ができると申されていたと記憶しております。知恵を出し合い、地元の商店街と協力していかなければならないし、九陶までのアプローチをどうにかしたいとも申されていたと思います。今一度、駅前の対応、活性化はどのようにしていくのか町長にお伺いをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕 今、議員がお答えになったのがまさに私の思いでありまして、民間の方達の力を借りながら、そこに補助金なり、いろんな手立てができればなと思っております。やはり関西の方のコメントが議員に残られているように、私も、この一般質問でこういうのがすごく強烈に残ってますので、その方が今度来た時は、本当に賑わいができているなというところが、今後、昨日も申したと思うんですけど、お土産ショップができたりとか、いろんなちょっと点と点ができてきているので、何とかそこに盛り上がりを作りたいなとちょっといろんなところにアプローチもかけておりますので、そこは結果がまだ出てませんので、そういったところも含めて、ぜひ私もJRさんとも一緒になってですね、駅近辺を元気にしたいと思っております。

〔9番 原田一宏君〕 一部、町民さんにはですね、駅前に庁舎をという声もあるようです。そこら辺も含めて今後の対応をよろしくお願いをいたします。続きまして、ペットマナーですけども、12月、昨年12月の一般質問、私は12月4日でしたけども、取り上げたところ、この画像を早速12月11日付の回覧を回して頂き、ありがとうございます。この回覧にあるように単なるマナー違反では済みませんと書いてあります。放置された糞は依然として見かけます。町として現状をどのように把握されているのでしょうか、お伺いをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕 住民環境課長。

〔淵住民環境課長〕 12月11日に回覧を行いまして、その後、総区長会においても看板の設置等について説明を行いました。その後、看板の設置の要望が数件あっております。周知については、また令和7年4月、5月に実施いたします狂犬病予防接種の集合注射時においても啓発を行うこととしております。

〔9番 原田一宏君〕 その12月の際に、イエローチョーク運動というものを紹介しましたが、県内

の他市町で取り組み状況はどのようになっているかそこをちょっとお伺いいたします。

〔今泉藤一郎議長〕 住民環境課長。

〔淵住民環境課長〕 イエローチョーク作戦とは、放置されている糞の周りを黄色いチョークで囲み、飼い主に対し困っている住民が居ることを伝える手法ですが、県内でイエローチョーク大作戦を実施している市町はありませんでした。

〔9番 原田一宏君〕 道路に放置された糞のところに丸を付けて、日付を書いてというのがイエローチョーク運動ですけども。いかんせん有田の場合は、道路脇の草むらというのも結構ありますのでちょっと難しいことはあるかもしれませんが、やはりこういうことも広めていかなければならないと思っております。具体的な対応としてやはり飼い主のモラルの問題だと思しますので、周知徹底の意味で、予防接種とかでチラシの配布とか、啓発を行うと課長申されましたが、区長会とか、区長会じゃない、今月どの地区でも総会等がありますので、そこら辺とか各種会合での周知啓発を重ねていくことで被害を少なくしていくことも必要ではと思しますので対応の程よろしくお伺いいたします。続きまして、6番目、窯業関連6月と12月ですけども、昨日の4番議員さんの質問と被りますので、割愛させて頂きたいと思いますが、以前ですね、開催するように努めたいと言われていた関係者の協議というものはどのような状況か、そこら辺、それをちょっとお伺いいたします。

〔今泉藤一郎議長〕 商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕 関係者の皆様の協議というところでございますが、現時点では、まだ開催には至っておりません。その時、12月だったかと思えますけども、事業者の皆さん、それぞれ状況がありますので、そのタイミングを見計らってということで答弁したかと思えます。現況としましては、昨年、肥前陶磁器商工協同組合解散ということがございまして、その時の組合数が約125社で、現在工業組合が80社、これは増減あるんですけども。窯元さんも重複はしております。ただ、200社ほどある中でそれぞれ企業戦略であったり、経営方針がございまして、様々な課題が山積しております。そういう状況ではあるんですけども、今回、陶土の値上げということがございましたので、タイミング的というところとちょっと語弊がありますが、業界の方への影響がかなり心配されるということもございまして、協議会という正式な場ではございませんが、町と有田商工会議所、合同でですね、その辺の意見交換会といいますか、情報収集を含めて開催できればということで、有田商工会議所さんと今、調整を進めているところでございます。

〔9番 原田一宏君〕町長は昨日の答弁で、関係者協議の場が必要で、10年、20年先を見据えて勉強会を考えていると申されました。今、課長は、来年度に関係者の協議を開催したい、会議所と話をしているとおっしゃっております。先月ですか、町長もご存じでしょうけども、生地屋さんの方で引っ張っていらっしゃる方が急に亡くなりました。これから先の有田のことをよく憂いておられて、こうした方がいい、ああした方がいいという提言を私どもも頂いておりましたけれども、そういうリーダー的な方がやっぱり亡くなってくるとどうしたもんかとなってきます。生地屋さんですから、昨日、4番議員さんが言われました、内製ができる場所はね、それでいいでしょうけども、有田はいかんせん分業体制できておりますので、これからまたさらにまた焼き物ができにくくなるのかな、仕上がりが遅くなるのかなと、出来上がりがですね。そうなるかもしれないので、やはり町長も言われた、先を見据えてと。課長も会議所さんと関係業者で協議していくとおっしゃいましたので、そこら辺踏まえて、業界がまずどうするということが必要でしょうけど、それに町がサポートするという形になると思いますが、そこら辺の方よろしくお願いして、次の質問にいきたいと思います。7番目、空き家対策。これは12月ですけども、総務委員会で視察研修を行った上市町の0円空き家バンクのような政策は、有田町としては難しいとの答弁でしたけども、現在、他の議員さんにも耳に入っていると思いますけど、一軒家はないかという問い合わせが結構来ているようです。その点の状況把握というものはされておりますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕ちょっと具体的にはですね、町の方にいろんな問い合わせは来てないんですが、一応、そういったお話は聞いてます。

〔9番 原田一宏君〕以前もですね、空き家があっても、空き家の後ろの方に持ち主、大家さんが住んで前の方だけ貸すという、物件が少なからず存在すると伺ったことがあります、現在も結構そこら辺はあるのかどうか、そこら辺把握されておりますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕その辺りも一応、あるというのは把握しております。そういう意味も含めて現在、町の方では、町内のNPO法人様と契約を、委託契約の方を結んで、市場に流通していない空き家、あるいは借り手が付かない空き家などの所有者と空き家を利用して地域の活性化等のために活動を行う場所を求めている方を繋ぐための空き家マッチング事業の方を実施しております。今後は、2地域居住による要望等も出てくると思われますので、この事業の強化を検討した

いというふうに考えております。

〔9番 原田一宏君〕やはり借主、貸主、それぞれに思いはあると思われますが、空き家の解消、利活用が人口増にもつながってくるし、観光や経済発展にも寄与すると思いますので、そこら辺、課長言われたような対応よろしく願いをいたします。続きまして、大項目の2番目、災害対応ですけども。阪神大震災から30年、東日本大震災から14年が経ち、昨年1月には能登半島地震があり、地震大国日本では、南海トラフや東南海トラフの巨大地震に戦々恐々の今日と思われまます。町の防災研修会や県の市町行政講演会でもそれぞれ気象と防災、佐賀の気象と災害と地球温暖化というある意味共通テーマの内容でお話があり、より一層の災害による備えが重要視されてきております。また、先週行われた有田町防災会議では、町の昨年の災害対応は6月27日から28日の大雨、避難所2箇所開設、3世帯3人避難、7月1日から2日大雨、2箇所の、避難所2箇所の開設と避難者2世帯2名、7月13日から15日の大雨で避難所2箇所開設の1世帯1名、8月29日から30日の台風で7箇所、避難所7箇所開設14世帯18名、11月2日に避難所2箇所開設、2箇所開設しましたが、避難されている方はいなかったというあれで。主な被害は11月に倒木、町道の法面崩落があったと報告がありました。災害発生に対してですね、避難所運営で、準備、町で準備されていること、物、そこら辺は何かお伺いをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕総務課長。

〔木寺総務課長〕お答えします。災害発生に備えて避難所で準備していることといたしますと、備蓄品の充実を現在図っております。備蓄品としましては、水2ℓペットボトルを1,300本程、500mlが520本程、その他、食料としまして、アルファ化米、生活用品としましては、マットレスでありますとか、毛布、段ボールベッド、生理用品等、簡易トイレ、携帯トイレ等を準備しているところであります。この備蓄品につきましては、指定避難所の方に分散して保管をしています。ある程度主要な備品については、泉山体育館でありますとか、文化体育館、体育センター、婦人の家の方に分散し、後は町の防災倉庫の方で保管をしているという状況であります。

〔9番 原田一宏君〕次に、避難所対応ですが、全国で見ると実際に避難された方へのアンケートでは本当に困ったことのトップは眠れる環境だそうです。66%。次がトイレ62%とのことです。眠れる環境があつてのトイレ、水、食料、お風呂、プライバシーなどと思われまます。有田町の場合、避難所としては生涯学習センターや婦人の家、体育館等があげられますが、実際に避難してこられた方からのご意見、ご要望というものは寄せられているかお伺いをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕総務課長。

〔木寺総務課長〕避難所の備蓄品についての要望というものは具体的にはあっておりません。避難所を利用される方はまず安全確保ということで避難してこられますので、そういった備蓄品の要望というものを口に出して言えるということをしまい込んでしまわれる可能性もあるかと思います。町では自主防災組織のリーダーでありますとか、防災士、消防団等による防災研修とか、避難所運営訓練を今まで実施してきておりますけれども、婦人会への防災講話等も行っております。そういった場でお聞かせ頂いた意見を参考に、また避難所運営にあたる町職員の声をもとに備蓄品の充実を行っているところであります。ちなみに、今年度は4月に山谷切口地区でのレクリエーション大会での防災講話でありますとか、町内事業所、ケアマネージャーの方の研修の場での防災講話、子ども食堂での講話、あと、自主防災組織連絡協議会の防災研修会等でそういった研修の場での意見を吸い上げているという状況であります。

〔9番 原田一宏君〕先程言ったようにですね、眠れる環境があつてのトイレや水などの必要性が挙げられます。昼に寝たかったというアンケート調査報告もあると聞きますが、町の場合、生涯学習センターや婦人の家には昼の部屋があります。が、体育館には準備されておられません。そういう場合は毛布の貸出しとか、ベッドとかそういう対応をされておりますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕総務課長。

〔木寺総務課長〕町が準備しておりますマットレスといいますのは、避難された方の仕切りとしての活用できるというマットレスなんですけど、厚さにして3センチぐらいのマットレスです。避難者の方が少なければですね一世帯1枚というわけではなくて、複数枚が使われたりということはありますけども、段ボールベッドにしても実際そこに寝た時には硬いという印象がありますので、その上にマットレスを引いて頂いたりとか、毛布を活用して頂いたりとか、そういった対応を現在行っております。

〔9番 原田一宏君〕やはり眠れる環境があつての避難所運営だと思いますし、有田町の方では女性用の対応もされていると先程言われましたけれども、全国的には女性避難者への対応が十分ではないとの報道もありますので、その点も含めて避難所運営の方の対応をよろしくお願いします。最後にですね、日本一安全な町宣言ということで、上げております。日本の各地ですね、ここ出しておりますけども、スポーツ健康増進の町、写真の町、人権尊重の町、読書の町とか、平和の町、スキーの町、書いて、などと最後書いておりますけども。そういう何々の町、何々の市、何々の県の宣言をしているところが多数あります。大雨、風水害、台風、地震等、災害の多い日本ですが、佐賀県は地震が少ない県の第1位、ゲリラ豪雨が少ない県の第3位となっております。台

風・地震・ゲリラ豪雨からみると、日本で一番災害が少ない県は、1位佐賀県、2位鳥取県、3位滋賀県、4位奈良県、5位香川県となっております。町内での大きな水害は昭和23年の水害、昭和42年の水害の後はなく、先日の宮崎の地震でも県内は被害も少なくかつ有田町は揺れた？ぐらいの感じ方だったと思われます。実際、震度「4」県内では震度「4」が神埼、白石。

「3」が佐賀、小城、上峰、みやき。「2」が唐津、鳥栖、多久、武雄、鹿島、嬉野、吉野ヶ里、基山、大町、江北、太良。「1」が伊万里、玄海、有田という状況でした。ある町民さんがですね、「有田は水害も42水以降無かし、地震も無か、こがんよかところはなかばいい、日本一安全な町ばい」と申されておりました。このように風水害や地震が少ない町ですので、大げさではありますが、日本一安全な町宣言をしてはどうかと思いますが、この点、どのようにお考えになっているか、お伺いをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕総務課長。

〔木寺総務課長〕おっしゃるような、町民の方からですね、有田町は災害が少ないとか、有田町は地盤が固いから安全だとか、そういった声を頂くことはあります。議員がおっしゃられたように23水、42水以後ですね、大きな災害というのはあっておりません。河川改修等も進んで整備がなされたということもあろうかと思えます。確かに肌感覚としてはですね、有田町は地震も少なく、災害も少ないというふうに私自身もそういった認識は持っております。ただ、今全国で起こっております気象災害とか、近年、県内で起きた水害及び土砂災害におきまして、有田町がいつ何時そういった事態に見舞われるかという可能性はやっぱり否定できないということに思われます。線状降水帯が停滞し続けて、重大な災害に見舞われるというケースも無くはないと思います。何をもって日本一安全な町なのかっていう、日本一安全な町という宣言をした時に、何を持ってというところがやはり懸念であります。その根拠を示すことが難しいというところもあって、宣言ということではかなり厳しいかなとは思いますが、災害に強い町としては、企業誘致含め、対外的にアピールしていく材料だとは思っており、現在も行っておりますので、そのような認識で気持ちとしては、災害に強い町としてのアピールを図っていきたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、議員おっしゃるとおり、企業誘致の点ということで、日本一安全な町ということで宣言してはということですが、やはり課長が申したように、いつ何時何かがあるというところで、我々がそれを堂々と謳うということはちょっと厳しいです。今、現在私も南部工業団地とか、南原工業用地とか、いろんなところで企業誘致を進めてる中で、災害に強い町としていう

ことは、文書には書いてないですけど、一番のPRとして謳っております。うちの職員もそのような気持ちでありますので、宣言はできませんが、口頭ではしっかりと伝えているので、ここは本当に企業誘致にとって最大の強みだと思っておりますので、最大のPR点として十分伝えているので今後もますます強化していきたいと思います。

〔9番 原田一宏君〕日本一安全な町は難しいということで、災害に強い町ということを謳っていきたくと課長、町長申されました。その謳うことによって、文言がどうかちょっとまだ正式にはこうした方がいい、ああした方がいいという文言の選択もあるでしょうけど、ひいてはそれが移住定住であったり、企業誘致の言われたように謳い文句になって、宣伝にもつながってくると思います。ぜひともですね、この表にあるように長崎県が犯罪のない安心安全のまちづくりとあります。安心安全の都市宣言、光市とありますけども、災害に強い町というのはあまりないようでございますので、それ検討頂いて、有田を謳って頂いて、そのように謳って頂いて、先程申しました移住定住企業誘致に進めていってほしいとお願いしまして、私の一般質問を終わらせて頂きます。どうもありがとうございました。

〔今泉藤一郎議長〕9番議員 原田一宏君の一般質問が終わりました。10分間休憩いたします。再開は11時といたします。

【休憩10：48】

【再開11：00】

〔今泉藤一郎議長〕再開します。1番議員 浦川和彦君。

〔1番 浦川和彦君〕議長の許可を得ましたので、1番議員 浦川和彦、通告に従い質問をさせていただきます。今回は有田町の地域資源を活かして、地域の活性化や発展を図る取り組みについて質問をいたします。まず初めに令和7年度当初予算において、竜門キャンプ場の改修事業に1億4,000万円の予算が組まれています。その改修に関するキャンプ場の規模や事業内容を含む造成計画書及び基本計画図、ゾーニング図について説明を求めます。

〔今泉藤一郎議長〕農林課長。

〔江口農林課長〕お答えします。竜門山の家は、昭和52年に国の林業構造改善事業で設置されました。建てられた当初は、自然観察会など自然に親しむ目的での活用がなされておりましたが、現在はキャンプ場の予約や予約受付や場内の維持管理、川遊び団体客の休憩場所としての利用が主なものになっております。今回ですね、山の家改築及びキャンプ場等の改修は来場者へ

の情報提供や今のニーズに合った使い勝手の良い施設へというのが目的です。具体的な事業内容は、老朽化した山の家を解体し、新たに登山客やキャンプ場利用者への情報提供ステーションとなる管理等を整備、新たに取得した山の家隣接部分に家族連れにも利用しやすいオートキャンプサイト6区画の整備、キャンプサイトの地盤改良、整地、電気設備工事、既存バンガローの内装補修、通路の舗装です。農林課内での大まかなゾーニング図、改修希望内容をもとに、現在詳細の基本設計作成を委託をしております。具体的にお示しできるようになったら説明の機会を得たいと思っております。

〔1番 浦川和彦君〕来場者への情報提供や施設利用変化に応じた使い勝手の良い施設への改修が目的ということで言われました。私はですね、3年前の9月議会で竜門キャンプ場の再整備を求めたので、この事業の趣旨については賛成ですが、その中身については疑問点があります。1点目に事業費の内訳についてですが、より詳細な説明が必要です。現在造成の計画書や基本計画図は作成中とのことですが、この改修規模で1億4,000万円以上の費用がかかるのか、疑問に思っています。具体的には山を家の解体と管理等の建設を行う。またいくつかのログハウスを解体し、オートキャンプサイトを設置し、キャンプサイトへの通路を舗装する予定だと言われました。山の家とバンガローの解体費用は不明ですが、管理等の建設費はどのくらいかかるのでしょうか。オートキャンプ場の設置数は6箇所といわれましたが、地盤改良や整地、排水設備、電気設備工事等、通路の舗装が必要で、果たして1億4,000万円もの費用が必要なのか疑問に思います。わかる範囲で説明をお願いいたします。

〔今泉藤一郎議長〕農林課長。

〔江口農林課長〕山を家の解体についてですけれども、こちらの建物、鉄骨でできておりまして、木造解体よりも費用がかかります。また、今回のアスベスト調査から何箇所かアスベストが使用されている建物であることがわかりました。その除去、処分についても通常の解体とは異なってくるかと思われます。新たに整備する管理棟は、情報発信と屋根付きの登山客の休憩場所、こちらは悪天候に見舞われた際のキャンプ客の避難場所としても活用できるかと思います。それからこれまでキャンプ場内にあった炊事場は取り壊して排水処理を1箇所に集約するために管理棟内にキャンプ利用客の調理スペースや利用者のシャワー施設を設けるといった内容です。それから昨今の資材高騰、人件費増も加味していることもあるので、これまで以上の費用もかかる予想であくまでも当初予算ですけれども多めに組んでいるところです。

〔1番 浦川和彦君〕わかりました。山の家が鉄骨でできているということですね。山を家の解体や

管理棟の建設にかかる費用が予想以上にかかるということが言われましたけれども、当初の予算が多めに設定をされているということですね。そこでですね、キャンプ場の事業設計においてはどのようなタイプのキャンプ場を作成するのか、ターゲット層は誰で、そのためにどのような体験を提供したいのかというコンセプトが非常に重要です。竜門キャンプ場のコンセプトについては、どのように考えられているのでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 農林課長。

〔江口農林課長〕 竜門キャンプ場はですね、町内外から3世代にわたって訪れて頂いている有田町でも誇れる自然豊かな場所です。親子やグループで自然に親しみ、有田町の良さを満喫して頂けるような場所にしたいと思っております。

〔1番 浦川和彦君〕 ちょっと具体性に欠ける答弁だったと思いますけども、キャンプ業界は多様化していてキャンパーのニーズは常に変化してるため、これからのキャンプ場整備には、利用者の要望に応えられる場所づくりが求められます。そのためにも現行のキャンプサイトの整備状況が気になるところです。モニターをご覧ください。左側が竜門キャンプ場、右側が黒髪山をはさんで反対側にある山内町の乳待坊いこいの広場キャンプ場です。竜門キャンプ場の現在の区画サイトはここにもありますけども、一番広いスペースでも3.7m×3.2mと、今では時代遅れの広さです。現在のソロキャンプに必要とされるスペースは最低5m×8mは必要であり、ファミリー型なら8m×8m、オートキャンプ場には10m×10mの広さが必要です。一方、乳待坊キャンプ場は、区画がなく、フリーサイトで、27張りを設置できる条件が整っており、特にファミリーには適した環境とされています。区画の有無が必要なのかも含めて見直すべきだと思います。次のモニターをご覧ください。これはですね、3年前の質問で提示した竜門キャンプ場と乳待坊キャンプ場との比較表です。乳待坊キャンプ場はInstagramを活用しており、フォロワーは2,000件以上に増加をしています。キャンプ場はオンライン予約やWi-Fiの提供を行い、現代のキャンパーのニーズに応えています。さらにデイキャンプや野外でのリモートワークにも対応しており、様々な顧客要求に応じたサービスを展開しています。手ぶらでキャンプが可能なレンタルサービスやテントサウナの導入など利用者にとってのメリットも豊富です。そのため新たにキャンプ場を開設する場合、乳待坊キャンプ場と競争できるようなシステムやサービスの構築が求められ、入念な調査や研究が必要です。そして、最後にキャンプ場の事業計画には収益モデル、指定管理を含む運営方法、将来的な見通し、そして継続性の確保が不可欠です。この点を考慮し、竜門キャンプ場の事業計画、運営戦略はどのように考えているのか、町

長、具体的な内容をお知らせください。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕議員の質問ですが、これまでは受付、場内維持とか、いろんなことに関しまして、町で行ってまいりました。今後は指定管理や民間活力の可能性も検討するのに十分だと思っておりますので、これを機にそういったところを重々研究しながら進めていきたいと思っております。先程、1億4,000万というところで高いというご批判もありましたが、やはり資材高騰とか、人件費の高騰含め、ちょっと大きめのスケールで物事を考えておりますので、ちょっと多いのかなというところは思われて当然かなと思いますが、できるだけ我々も費用と、そして、今後計画をしっかり練っていききたいと思っております。昨日も質問ございましたが、岳の棚田キャンプ場も含め、やはり連携を取りながらこの後にございますが、有田ダム等も含めてネイチャーツーリズムっていうところのしっかりとしたコンセプトをもちながら連携を取りながらやっていきたいと思えます。やはりどうしてもキャンプ場、我々公立がパブリックで持ってしまうとなかなか硬い、なかなかなんて言うかですね、ソフト的に弱い部分がありますので、今後は民間の力を活用しながらというところを重々研究しながらというところを思っております。また、サウディングではございませんが、やはり日頃黒髪山に登られている、毎週登られている方もおられますので、そういった方の利用の声とか、いろんなところからお声を聞きながら、今後のキャンプ場の事業計画とか運営方法に活かすような形を重々としていながら、このプロジェクトは進めていきたいと思っております。

〔1番 浦川和彦君〕先程ですね、町長から、今後、指定管理制度や民間事業者の可能性を検討したいということでも言われましたし、民間の力を借りながらしていきたいということも言われました。私はですね、この事業計画において最大の懸念は収益性が確保できるかどうかということです。今回竜門キャンプ場を利用されているリピーターの意見も聞くことができました。キャンプをする人の考え方は目的やスタイルによって違いはありますが、竜門キャンプ場の良いところは何かと尋ねると、第一に利用料金の安さが魅力だそうです。キャンプサイトが1人で平日160円、週末でも200円、この金額で自分時間を楽しめるというのはほかにはない利点とも言われました。でもこの金額では新しいキャンプ場の運営はできないですね。周辺キャンプ場の料金を調べると乳待坊キャンプ場はテント一張り1,100円、昼間だけのデイキャンプは無料、オートキャンプ場であれば、伊万里湾の全景が見られる波多津町にあるアグリ山オートキャンプ場は1区画2,000円、佐賀市大和町にある道の駅オートキャンプ場は川上峡を流れる川遊び

ができて2,000円です。また、多久市の西部に位置する船山オートキャンプ場は平日2,500円、週末3,000円と割高ではありますが、広々としたサイトが22区画もあり、佐賀市が望める夜景や景観が本当に魅力的です。例えば、価格帯を同じにした場合でも竜門キャンプ場はキャンプできるサイトの数が少ないばかりか、差別化できるような際立った魅力がないため、集客には難しさがあり、利益が出るか不透明です。確かに、指定管理制度を利用した運営方法には大きなメリットがあります。例えば民間事業者のノウハウや専門性を活用することにより、経費削減にもつながる運営効率やサービスの質の向上、採算だけではなく、責任の明確化もこの制度の特徴であり、トラブル発生時の対応がスムーズに行われるという利点もあります。でも、安定的な利益の確保や運営主体をどこにするのか、しっかりとした方向性がない中で、多額の予算を付けて実施をするということに疑問があります。将来的な見通しがあまり見えない中で本当にこの計画でいいのか、民間や指定管理の運営会社が現れるのか疑問に思います。町長、本当に大丈夫でしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕事業計画はまだ今から作っていきますが、キャンプ場として我々は売りたいのではなく、竜門全体として売ろうと考えております。そういった意味で山の家のリニューアルも含めて考えます。例えば昨日から出ておりますが、岳の棚田のキャンプ場もありますし、そういったところでネイチャーツーリズムという大きなくくりの中で考えていますので、この竜門キャンプ場というのは確かに名前はありますが、やはり町で今まで持ってきて先ほどおっしゃられたような料金の比較等にもなります。じゃあどの値段がいいのかということも重々研究しながらではありますが、やっていきたいと思います。やはり公共で持ってしまうとどうしても硬いやつにしかありませんので、そういったところを含めて運営をやって頂けることが募集がなかったのであれば、我々探してでもお願いをしたいと思いますし、やはり公共で持つということと、民間でやっていくことの可能性どちらも鑑みながら前に進めていきたいと思いますし、まずその、キャンプ場だけだと確かに魅力はないかもしれませんが、やはりデイユースで使われる黒髪山の登山客の皆様にゆったりして頂ける山を家の機能を持たせたりということで、ちょっとなかなか夢は描けないかもしれませんが、その中で皆さんによりよく使ってもらえるように、後、オートキャンプの可能性とかもいろいろ考えたいと思います。先程おっしゃられたように、やはり多くの声を聞く場を設けたいなと思いますし、今簡単にグーグルでアンケートも作れますし、そういったところのQRコードを作るとか、いろんな皆様の声を聞く手段はあると思っていますので、そういっ

た議員のご指摘の件も含めてですね、今後の計画等も推し進めてまいりたいと思います。

〔1 番 浦川和彦君〕私、先程、初めにも言いましたが、3年前にこの質問をしたんですけど、そういう趣旨からいうと、私は事業そのものについては賛成です。でも、例えば先程言われたように、黒髪山の低山の魅力も非常に活かさなければいけないと思いますし、そういう意味では例えば町自体では厳しいけども、指定管理や民活を、民間活力をですね、しなければいけないというのももちろんわかります。しかし、果たして収益性がそれで取れるのかというのがちょっと疑問だということでした。ちょっとですね、関連して別の質問をして移りたいと思います。昨年ですね、有田ダムに新設のトイレが設置をされました。今後の有田ダム周辺におけるキャンプ場の整備やその他の施設利用計画はあるのでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕農林課長。

〔江口農林課長〕白川キャンプ場のところなんですけれども、トイレを設置したところはですね。管理人もちょっと不在で設備の維持が難しく廃止をいたしました。ウォーキングとか、トレッキング、学校の遠足の場所としては活用はありましたので、後、ダムへの水の流れ込み等が心配があったため、自浄式のトイレを設置するに至りました。しかし、ここをまたキャンプ場に活用する計画というのはありません。

〔1 番 浦川和彦君〕わかりました。有田ダムの遊休施設の整備計画はないということですのでよろしいですか。はい。次に、岳の棚田地区の景観保持と観光スポットに繋げるためのこれからの取り組みについてはいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕農林課長。

〔江口農林課長〕棚田の景観を保持するためには、地元農家に田んぼを作り続けてもらうことが重要かなと思っています。昨日の岩尾議員の質問の回答にも繰り返しになりますけれども、農政としては、荒廃農地が増えない対策、営農を続けてもらうよう中山間地域等直接支払交付金を活用するほか、県の棚田ボランティア事業と各種補助金事業を活用して地元農家を支援していきたいと思っています。観光スポットに繋げるためのこれからの取り組みなんですけれども、やっぱり中山間の農業の生業というのが自然景観そのものが観光資源になっているのではないかなと思います。公的機関が投資してどれくらい費用対効果があるのか検証していく必要がありますけれども、正直、公的機関が携わるのは正直厳しいかと思われるので、これから民間活力に委ねる方がスピード感だったり、利活用の広がりだったり、期待できるのではないかなと考えております。

〔1 番 浦川和彦君〕わかりました。先程、課長さんから岳の棚田の景観保護に関する交付金や補助

金を活用する取り組みの説明がされました。また、昨日の15番議員からの中山間地農業の取り組みや考え方、そして2番議員からの農村公園事業の使用制限が解除されてからの今後の活用について、農林課長からニーズに合ったブラッシュアップの必要性などを言われました。これから棚田の魅力を活かすには、農業の生産性に限らない、新たなアプローチが求められてくると思います。モニターをご覧ください。昨日ですね、町長も述べられましたが、このキャンプ場は、稲作が終わった11月から3月までの期間限定で運営をされ、昼間の棚田の美しい風景や満天の星空、早朝の雲海といった自然の絶景を楽しむことが特徴です。昨年度には120名以上が訪れ、全国各地から多くの利用者がありました。主に福岡、佐世保のお客さんが多かったんですけども、熊本や沖縄からも見えられました。昨年、年越しキャンプには、広島からもご夫婦が見えられたりとか、昨日も話にありましたが、奈良県明日香村の棚田のキャンプ場の方も交流に見えられました。私は、キャンパーではありませんが、九州各県のキャンプ場を10箇所以上訪問しました。そこで収益を挙げられている3つの特徴をお知らせいたします。1点目は、竜門キャンプ場に区画サイトを増やすには増やすにも限界があり、他に区画サイトを増やすしかありません。ちなみに乳待坊は27区画、船山オートキャンプサイトは22区画あり、週末は2ヶ月以上は予約で満杯です。そこでキャンプサイトを増やすために、竜門キャンプ場と岳の棚田との併用の運営はできないでしょうか。武雄市では山内町の乳待坊と若木町の眉山キャンプ場の2箇所を運営することによって効率を図り収益を挙げられています。2点目にレンタルや食材、飲食のサービス提供でも収益を挙げられています。乳待坊ではレンタル商品が豊富でテントサウナは2年前は2台でしたが、今は4台完備をされています。レンタルの初期費用はかかりますが、サービス提供はそれ以上の収益向上となっています。3点目に先程ですね、副町長が差別化について言われたけども、やっぱり差別化は必要だと思います。他にはないキャンプ場の魅力を作ることだと思います。モニターをご覧ください。最近注目されているドーム型のグランピングが左側に、右側には西海橋の針尾にあるトレーラーを改造したグランピング施設ですが、そこには8棟設置されています。岳の棚田にこうしたグランピングハウスが1棟あるだけでもキャンプ場のインパクトは大きく、棚田から眺めるロケーションは素晴らしく、観光客に忘れられない体験を提供し、有田町の観光資源としても注目を集められると思います。今ある資源、地域資源を活かすということです。竜門キャンプ場には海はない、温泉もありません。しかし、ダムがあります。ダムにボートを浮かせたらどうでしょうか。波多津の隣の福島町にも海を活かしたグランピングがあります。そこには船舶の資格免許の要らないモーターボートが備えてあり、こちらも週末は2ヶ月

以上の予約待ちで今はインバウンドのお客が多いそうです。ちなみにこのグランピングと合わせて針尾のグランピングも伊万里信用金庫から融資を受け、事業計画や収益性が認められるという証拠でもあります。また、以前も報告しましたが、長野県の阿智村という5,000名足らずの村で、天空の樂園、日本一の星空ナイトツアーと題して、年間10万人以上の来場者があります。下五島でも星空ナイトツアーがありますが、星空は春夏秋冬四季折々で、通年観光として集客できます。岳の棚田も満天の星空を見ることができる絶好のスポットであり、各地の成功事例を参考にすればアイデアも膨れ上がります。いくつか事例を報告しましたが、町長の答弁はまだ明確な運営方法や事業計画、収益性など不明な点が多いので、この事案については事業の見直しをするのか、それとも産業建設常任委員会で別途協議検討をして頂きたいと思いますが、町長いかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今事業計画ということでお話ありましたが、まだそのきちんとした建て方とか、そういう話はしておりますが、運営ということに関してはまだまだですので、そこは協議をしていきたいと思っております。

〔1番 浦川和彦君〕わかりました。具体的な絵ができれば協議をして頂きたいと思います。そして次の質問に移りますが、過去の議会でも取り上げた菅野公園グラウンドの整地要望について、今回は、3度目の要望となりますのでその答弁をお願いいたします。

〔今泉藤一郎議長〕建設課長。

〔舘林建設課長〕お答えいたします。昨年3月にも同様の質問をされていたかと思います。その中におきまして、私は答弁としまして、関係団体との協議をしていくということでの回答をしていたかと思います。その中におきまして、菅野公園は菅野公園のグラウンド施設に関しましては、整備供用開始後、30年以上が経過しておりまして、その中において、グラウンド面のみならず施設箇所の老朽化してる箇所も点在しております。そういった中で当初予定しておりましたグラウンドの一部の真砂土入れ替え等の改修工事等を行うことによってということ考えておりましたが、現地を確認する上において効果が見られづらいというか、効果が半減するという結果に至りました。そこで再度整備内容の見直しをしていく中において、やはり広域的な全面的なグラウンドの改修並びにグラウンドの面的な排水、暗渠排水の能力も低下しているということで、そういったものの排水整備の改善、並びに三塁側の法面からの有害鳥獣、イノシシ、タヌキ等の侵入もありますので、そういった防止対策工事が必要となることから、当初の予定した工事費に

比べ、大幅な増額が見込まれるという結果となりました。その中におきまして、今後の補助事業等の事業メニューの選定に伴う財源確保、また、緊急性、必要性の面において、ほかの他事業との協議調整等も必要となるため、速やかな対応、取り組みは難しいと考えているところであります。

〔1番 浦川和彦君〕先程ですね、課長の答弁で、予定していた工事費が、工事というか、現地の確認をすると予定していた工事費に対して大幅な増額が想定するので財源の確保が厳しいことや、事業の緊急性とか必要性において調整が必要で当面の間は対応が困難と言われました。そこで整備の必要性ですが、今の中央運動公園だけでは大会の調整が難しい現状があります。特に今年のソフトボール大会と野球の大会が重なり、3つの県大会の開催地を断念せざるを得ませんでした。また、今年の11月には有田町で九州・四国・中国ブロックの20チームが出場する西日本ハイシニアソフトボール大会をメイン会場は有田町に誘致できましたが、試合会場は伊万里市と有田中央運動公園に分散しなければならず、菅野公園の敷地整地さえできればこうした九州大会以上の大会開催が有田町単独で可能になります。2つ目は、財源の確保です。モニターをご覧ください。左側は廃校になった西多久小学校のグラウンドに作られた人工芝のサッカー場です。右側は伊万里市松浦町の佐賀西部クリーンセンターのそばにあるスポーツレクリエーション施設のグランドゴルフの人工芝の施設です。どちらもスポーツ振興くじTOTOの助成金を活用して立派な施設を建設しています。こうした助成金を調べて検討がなされたのでしょうか。ここに武雄市、武雄の図書館に行った時に頂いたファイルですけども、そこには、それ武雄が始めます。あったらいいなをつくるんです。できるといいなをやるんです。こうしてほしいをこうしよう考える。あるものを活かしてないものを作る。それ武雄の得意とするところと書いてあります。総じて私が言いたいことは、ないものねだりをしているのではありません。今あるものを活かしてほしい。もったいないですよ。佐賀県内に武雄市と有田町しかない専用の少年野球の球場を無駄にする。資源の浪費です。価値観の違いでしょうか。町長の見解はいかがでしょう。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、議員ご指摘の件でございますが、やはりTOTOのくじとかいうのは、事前な準備が必要でありますので、2～3年前からということでもありますので、ちょっと今回の件に関してはTOTOのくじの件は想定外で考えておりました。TOTOを活かす事業というのも私も非常に興味がありますし、積極的に作っていきたいと思っておりますので、今後は、可能性に賭けてそういうところにもどんどんチャレンジをしていきたいと思います。

〔1番 浦川和彦君〕今後、可能性にチャレンジをしていきたいということですね。TOTOは私も

分かりますけど、11月に受付をしてその翌年からなので私は今直ぐとか、そういうのを含めて検討されたんですかということをおは言いたかったんです。今回はですね、いずれにせよ、グラウンド整備の対応は困難であるという結論だと思いますけども。昨年ですね、グラウンド整備の、施設整備の利用計画書というのを9つの団体に書いてもらったんですよ。その団体に対してまだ回答すらありません。できないということであればですねやっぱり誠意をもって文書で回答して頂きたいと思います。早急に対応を要請いたします。よろしいでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕建設課長。

〔館林建設課長〕はい、わかりました。

〔1番 浦川和彦君〕最後の質問に移ります。ホテルの誘致について町内の状況や今後の進め方について見解をお願いいたします。

〔今泉藤一郎議長〕商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕ホテルの誘致ということでございますが、今の、町内の宿泊施設の状況についてまずお答えしたいと思います。町内にはキャンピングカーの施設を含めまして16の宿泊施設がございます。旧有田地区におきまして14施設、旧西有田町地区において2施設ございます。16施設の部屋数になりますが10施設、こちらで44部屋、家屋の1棟貸しというところで5施設ございまして7棟あります。そのほかキャンピングカーの施設が1つ15台分という状況でございます。

〔1番 浦川和彦君〕わかりました。今回ですね、私はまちづくりの推進について、竜門キャンプ場から岳の棚田、そして菅野運動公園のグラウンドの整備などの観光資源、地域資源の発掘や活用を要望いたしました。ホテルの誘致につなげ、町の地域経済の活性化に結び付くという趣旨からです。波佐見町には100名規模の集客できるホテルが2つあります。有田町にもそのような規模のホテルができるように、進出できる条件作りを目的、意識的に進めて頂きたいと思っています。有田町にホテルが進出する条件は何か、集客できるホテルの誘致についてどのように考えているのか、町長の私見をお願いします。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕私も町長就任以来、企業誘致と共に私もビジネスホテルとか、ホテルの誘致を懸命に動いてまいりました。その時に現地調査までしてもらって、マーケティングも3社ほどやって頂きましたが、やはり周りに伊万里、佐世保、武雄、嬉野等がございます。そういった中でビジネスホテルがあつて、有田町で例えば50部屋のビジネスホテルをどうでしょうかって言ったら、ち

よっと採算が取れない、わかりました、じゃあ15部屋でもいいので、ちっちゃいやつでもっていったら逆にホテルコストがかかってできないということでありましたので、そういったことも含めて私は今やっているのは古民家再生とかいうところで何人かって、先程、観光課長からありました、そういった小さな宿泊施設のパイをずっと広げていくことの方がまずはいいいのではないかと。先程、ご提案のようにキャンプ場のところも立派な私は宿泊施設と思っておりますので、そういったところも充実をはかります。もう一つ今おっしゃられたような、いろんな各種スポーツと文化の大会の時に誘致できるようにもちろんホテルも必要だと思っております。あと、いろんなところで、今、私も企業誘致と共にずっとホテルはPRというか、ぜひぜひということで本当に懇願して回っておりますので、その中からどこか気になったところが来てくれる可能性もありますので、今後も議員のご提案の同じ思いですので、私もあきらめずに最後までどんどんどんと進めてまいりたいと思っております。

〔1番 浦川和彦君〕ありがとうございます。共通の認識であるということと言われました。ホテルの誘致は地域資源を活かしたまちづくりの推進、永遠の課題であると思います。ぜひ、頑張ってくださいと思います。時間もちょっと余ったんですけど、予定よりもですね。最後にですね、ちょっと一昨日ですね、6番議員から木寺総務課長に慰労の言葉がありましたけども、ちょっと今回は、館林課長、私だけの質問だったんですけども、本当は菅野運動公園の事業を形として残るようなお仕事をしてほしいなと思って質問をしたんですけども、その実現は叶いませんでしたけども、私が見る、館林課長というのは、寡黙で、非常にまじめで誠実な方だなと思っています。ほかの方が不真面目で誠実じゃないということ言ってるわけではありませんけども、本当にこれまで、これまでのお勤めに対して、心から感謝を申し述べたいと思います。ありがとうございます。それではこれを持ちまして、一般質問終わります。ありがとうございました。

〔今泉藤一郎議長〕1番議員 浦川和彦君の一般質問が終わりました。昼食のため休憩いたします。再開は13時といたします。

【休憩 11：38】

【再開 13：00】

〔今泉藤一郎議長〕再開します。昼食前に引き続き一般質問を行います。10番議員 松永俊和君。

〔10番 松永俊和君〕では、議長の許可を得ましたので、10番 松永俊和、通告に従い質問します。今議会では、大項目として1. 令和6年度、すみません、令和6年一般質問に対する答弁の

検証と進捗を確認です。その次に、佐賀銀行有田支店跡地の駐車場の活用の方法について質問いたします。では、最初に、令和6年3月議会の質問で、GIGAスクール構想の事業の中から、まず第1、タブレット利用状況についての質問をいたしました。答弁では学校ごとに指導教員、生徒のスキルアップや家庭環境などばらつきがあり、特に長期休暇の夏休み、冬休み、春休みなどですね。タブレットの利活用についてはばらつきが出ているという答弁がありました。利活用状況は改善されたのか、また今後についてお答えください。

〔今泉藤一郎議長〕 教育長。

〔吉永教育長〕 お答えします。まずですね、この活用状況についてなんですけども、この1月、令和7年1月ですね、つい先日、全小中学校の児童生徒、そして教科を指導する教員に対して佐賀県下全体ですね、アンケートを行っております。その活用状況でですね、週3回以上、授業の中で活用しているかという、その項目があります。週3回以上授業で活用している状況、その状況として、小学生、県平均が、佐賀県平均が42%。42%の子ども達が週3回以上使ってますと答えています。有田町の小学生は50%を超えていますという状況です。次に、中学生については、県の平均が約40%。有田町の平均が87%。次に教員です。小中学校の教員の活用率ですが、県平均が46%。有田町が53%となっています。この結果を見ると、有田町の児童生徒、そして教員のタブレットの活用は十分進んでいると言えるのではないかと思います。また、児童生徒については、乾いたスポンジが水を吸うようにとでも言いましょうか、そういった形でどんどんどんどん活用が進むにつれて上達もしています。また、先生についてはですね、町主催の研修会を年4回ほど行っており、また、学校ごとや、個々人で研修を進めていますので、先生方の活用の状況も非常に良くなってきている状況です。

〔10番 松永俊和君〕 今、言われたのから察すると、県内では良い方だということで捉えていいんですかね。

〔今泉藤一郎議長〕 教育長。

〔吉永教育長〕 小中学校比べましても、小学校特に良い方ですし、中学校はトップクラスだと思います。

〔10番 松永俊和君〕 わかりました。それでは先程言いましたように、長期休暇の時のタブレットの活用の方はいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 教育長。

〔吉永教育長〕 長期休暇についてですけども、基本的に今回、最後の質問になるんですけども、キュ

ビナというものをA I ドリルのキュービナというものを導入させて頂きました。これをもちまして家庭に持ち帰って宿題をドリルで行うということも進められましたので、この長期休暇に子ども達、家庭に持ち帰ってそのキュービナの問題を解くということをやっております。そういった意味では、長期休暇で持ち帰る意味が出てきましたので、そういった意味で長期休暇の活用も進んでいるところです。

〔10番 松永俊和君〕わかりました。以前、お尋ねしたときは有小有小が良くて、あとはあんまりという感じで聞きましたので、あえて聞きました。ありがとうございます。それでは、次の質問になりますけれども、不登校児や長期療養児などの勉強の補完にタブレットを活用できたらいいですけどという提案をしましたが、その対応はいかがでしたか。

〔今泉藤一郎議長〕教育長。

〔吉永教育長〕不登校児童生徒ということですけども、今、現状ですね、不登校児童生徒については、中学校では、そう人数は変わらないんですけども、たくさんのお子さん達がいらっしゃいます。実は小学校の方が不登校児童の増加っていうのが今、全国的に上昇しているというか、増えているという状況です。ただ、不登校児童生徒といっても完全不登校の子はそう多くなくてですね、週1回2回学校に来るけどとかいうお子さん達も非常に多くいらっしゃいます。そういったお子さんの中には学校に来て相談室や保健室で1日を過ごしたり、学校に居れる時間をそこで過ごしたりというお子さん達も多くいます。有田町では、保護者さんに対してオンライン学習ができますよっていうのを周知しています。子ども達、そして保護者さんがオンライン学習をしたいと言えば、いつでもできるような状況を整えているところです。また、中学校には不登校支援員という先生、先生というか職員を各学校に1名ずつ配置していて、そういう相談室に来るお子さんたちのサポートをするっていうことを行っております。ですので、その子達が例えば、英語の授業を受けたいなっていうたら、すぐに先生に伝えてオンライン授業を受けられるような形を進めたりしています。実際の例として、その支援員さんの報告書の中に、例えば中学2年生の生徒なんですけども、相談室に朝から登校をして、1時間目は部屋で読書をしていました。2時間目は体育を見学しに行きました。3～4時間目は英語と数学をオンラインで授業を受けましたという例もありました。また、中学3年生は8時20分から登校をして、社会のリモート、オンラインの授業を受けました。9時10分に下校しましたっていう例もありました。このように、オンラインで授業を適宜受けていくという形です。先程言いました、完全不登校のお子さん、何名かいらっしゃいますけども。今、実際に完全不登校でオンライン学習を進めているお子さん、これもす

すべての授業ではないですけども、できる授業でということを受けているのは2名となっていて
ころです。

〔10番 松永俊和君〕私のちょっと知り合いが、今不登校になって困っているんだっていうふうな
相談を受けました。その時は、学校も一生懸命対応してるんだけど、自分たちも対応がどうして
いいかわからないとか言われて、ただ、学校と、これ、すみません質問に無いかもわかりません
けど、学校の中でそういう不登校になった原因というのは大体把握されているんですか。

〔今泉藤一郎議長〕教育長。

〔吉永教育長〕不登校の原因と言われるのが、まず、中学校においてはですね、精神的な不登校とい
うのが非常に多くなっています。例えば、自分が何か友達から何か言われているかもしれないと
か、どうしてもそういう不安という、心因的な理由で不登校になるお子さんが非常に多いという
傾向があります。小学校については、傾向として、少し怠け、怠学といわれるところであるとか、
家庭の不協力っていうところも少しずつ増えてきているという状況です。中には、ゲームをずっ
として朝起きれないとか、そういうお子さんが小学校の方には増えてきている状況になります。

〔10番 松永俊和君〕わかりました。すみません、突然の質問で申し訳ないです。それでは次の質
問で、A I ドリルの導入の進捗と導入後の成果はちょっと先程言われましたけども、昨日の6番
議員さんの質問の中であった、A I ドリルというのはPDF化はされているんですか。

〔今泉藤一郎議長〕教育長。

〔吉永教育長〕A I ドリルというのは、ほとんどもう、なんて言うんですかね、パソコンで問題を解
いたら次の問題がまた新たに出てきたりとかですね、間違いを、問題の間違いをしたら同じよう
な問題がまた選ばれるとかですね、PDFではなくて、本当に、アプリケーションというような
形で行われています。

〔10番 松永俊和君〕となると、繰り返し自分で勉強ができるということですね。

〔今泉藤一郎議長〕教育長。

〔吉永教育長〕このキュビナというドリルが一応一つの例えば算数の問題に対して、初級、中級、上
級というような3つに分かれていて、自分でそれを選べる。その問題を解いていったら得点がで
ますよね、大体これくらい解けましたよと。この後に、この間違えた問題に対して類似の問題を
用意したり、どんどんできる子はもっと上の問題を解いたりというような形で、子どもたちが、
今まで紙のプリントだと、その問題を解いて終わりだったのが、やる気があればどんどんどん
ん自分で問題数を増やしていったり、解く難易度を変えていったりというのはできるようになり

ます。

〔10番 松永俊和君〕わかりました。そういうのを教室というか、授業の中で取り入れながら勉強ができるというのは、今の子はすごい幸せだなと思います。また、それに対してやはり先ほど言ったように、不登校気味の方とか、そういうのに対してもそうやって対処できるというのがすごいありがたいことです。それでは次の質問に移ります。令和6年9月の議会で質問しました、有田町公共施設等総合管理計画の中からまず1つ目、生涯学習センター南館、北館とありますが、老朽化が進んでいることは皆さんが承知されていると思います。9月議会では、所管である生涯学習課長は老朽化が進んでおる。早急に検討をすると答弁され、町長も近々関係各位と検討し、総合バランスを考え対応すると答弁されました。学習センターの件については、以前から改修箇所などを指導しながら対応してもらっていましたが、建設設備、つまり施設の設備やその建物自体の老朽化が進み急速に対応をお願いしたいと思います。各関係課との協議検討とその結果とその後の対応、計画についてお答えをお願いしたい。

〔今泉藤一郎議長〕財政課長。

〔鷲尾財政課長〕有田町公共施設等総合管理計画を担当しております財政課の方で答えさせていただきます。現在のところ以前の松永議員の質問を受けたのちですけれども、対外的にですね、言えるような進捗というのは、大きな進捗というのはありません。人口がですね減少していく中で、有田町全体の公共施設の在り方を検討していく中で、公共施設の削減や他施設との複合化等もですね同時に考えていくことが重要だというふうに考えております。以前の答弁の中でですね、現保有量の、将来的にですね、現保有量の約36%を縮減する必要があるというふうに答えております。現在ですね、中学校の適正配置等の協議も行われておりますけれども、その辺りとも密接に絡んでくる部分もあると思われますので、単に生涯学習センターだけの改築を考えて早急に結論を出すことができないという状況の中でなかなか答えが出ないというのが現状です。とはいえ、生涯学習センターの北館は建築後50年近くが経過をしておりますし、耐震構造もなしという結果が出ております。また、生涯学習センター南館もですね、北館よりも古い建物になっております。ただ、南館は耐震構造は補強済みということにはなっておりますけれども、ただ、非常に老朽化をしているという状況でもあります。そういう中で、なかなか結果が出ないということではありますけれども、臨時的にせよ、なんらかの対応が必要であるというふうに考えております。

〔10番 松永俊和君〕そうですね、私の提案というか、町で取得した大有田焼会館の2階の一部、つまり、肥前陶磁器協同組合の場所へ移転するというのもどうかなと私は思います。2階の小会

議室や3階の会議室など、一角を使って教育委員会も移転できるのではないかと思いますけども、町有財産となった大有田焼会館全体を利活用を行ってほしいのですが、その辺の考えはどうか。

〔今泉藤一郎議長〕財政課長。

〔鷲尾財政課長〕現状におきまして、教育委員会をですね、大有田焼会館に移転ということは今のところはちょっと検討はしておりませんが。ただ、先程の生涯学習北館が耐震構造がないということで、もしですね、生涯学習センター北館が使用できないような状況になった場合は、その機能の一部をですね大有田焼会館に移転させることは可能ではないかというふうに考えております。機能の一部というのは、例えば、北館の4階の大ホールとか、3階の会議室などを大有田焼会館の方での利用というのは考えられることではないかなというふうには考えております。

〔10番 松永俊和君〕どっちにしても生涯学習センターの北館、南館はやはりもう築年齢も古いし、耐震化もちょっと怪しいということもありますので、私もできれば今空いてる大有田の方に少し移転して頂いたらどうかなと思ってます。またですね、繰り返しになるかも知れませんが、北館の設備や建物も経年劣化が目立ち、耐震診断で不適合という建物になっています。そこで対応策としてやはり北館を改修し、旧ほんまち保育園の活用などをして、町民や学生、小学生とか中学生とか高校生なんかもあそこ通りますので、利用できる場所に作って頂けないかと思いますが、ただ、あそこの図書館でもそうですけども、もういい加減危ないよ、古いよ、もう経年劣化すごいよっていうふうに言ってもう10年近くになりますけども、今すぐに取り組む必要があるんじゃないかと思うんですけども、町長いかがでしょう。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、課長から答弁ありましたように、やはり公共施設等総合管理計画に基づきながら動いています。今、議員ご指摘のやはり心配ということは我々も重々考えております。先程説明あったようにやはり統合中学校の話をまずですね、そこが決まってから一気にとはいいいませんが確実に動かしていきたいと思っております。そういう4階の大会議室とか、3階の視聴覚室とか、移行できるようであれば、大有田焼会館も今、話がついたところでありますので、今後の入居の状況とかいろんなことも含めてあそこ自体が全体が大有田焼会館自体が有田町の町有となればいろんな対応ができると思いますので、本当に老朽化と共に考えなくちゃいけない案件だと思っております。議員のご指摘も含めてしっかりと対応していきたいと思っております。

〔10番 松永俊和君〕ぜひよろしくお願いします。

〔今泉藤一郎議長〕財政課長。

〔鷲尾財政課長〕議員からのご提案もあっておりますけれども、先程、具体的な改築の計画というのがまだなかなか進んでいないということを申しましたけれども、現状においては詳細な協議や必要な経費等の算定等もできていないという状況です。そういう中でですね、公共施設の削減と、あと他施設との複合化というようなことを念頭に置いて生涯学習センターの在り方を考えた場合に、いくつかのパターンが考えられるのではないかというふうに考えています。あくまでも大枠の考え方になると思います。1つ目が、現在の生涯学習センター北館を解体せずに耐震を補強してリニューアルするという、リニューアルして長寿命化を図るということも考え方の一つではないかというふうに考えています。2つ目がですね、北館を解体し、北館の先程も申しましたけれども、北館の機能を大有田焼会館やほかの町有施設に分散させると、新たな施設は新設しないという考え方もあると思います。3つ目がですね、先程、北館もですけども、南館も非常に古くなっているということも申しましたが、北館及び南館両施設を解体して新たにあくまでもコンパクトな現在の規模ではなくて、コンパクトな施設を新設するという考え方も一つかなというふうに考えております。他にもいろいろな考え方があると思いますが、様々な課題を検討しながら方向性を探っていければというふうに考えております。

〔10番 松永俊和君〕わかりました。やはりいろんな考え方が、考えれば考えるほどいろんな考え方出てきますけども、もういい加減どうにか、ある程度の目標というか、計画をやはり発表してもいい頃じゃないかと思っておりますので、早急をお願いいたします。それでは次に、石場相撲道場の、相撲道場じゃありません、石場相撲場の今後についての質問ですけども、前回の質問の中で答弁を頂いたのは、対応策についての石場との協議をするという答弁をされました。有田の伝統である石場相撲大会をこのまま衰退してほしくないという思いであります。町民の皆さんからも寂しい、このままでよいのだろうかと聞きます。昨日2番議員さんからの一般質問でもありました泉山磁石場の効果的な利活用として、泉山周辺地区、つまり石場相撲場など含めて歴史探訪のできる環境整備などがあつたらということでしたけども、石場組合とのそのような協議をされたのでしょうか。状況はどうなっていますか。

〔今泉藤一郎議長〕商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕昨日、すみません、一昨日ですね、2番議員さんの方から質問がありまして、そのことについては回答させて頂いたところです。その件については、まだ磁石場組合との協議はなされて、しておりません。委員さんの質問の件につきましては、昨年の9月議会に、定例議

会の方で議員さんの方から現相撲場の屋根、鉄骨の経年劣化への対応と、あと石場相撲大会の継続か否か、その審議の開催をとご質問であったと認識しております。その時の答弁としまして、有田磁石場組合議会、議員さん17名いらっしゃいますけれども、全員協議会を開催いたしまして、その結果をお伝えしたところでございます。内容としましては、区、事業所の方が参加者を集めるのに大変苦慮されていると、苦勞されているということ。2つ目が、地区によっては若い方や児童数の減少によって、参加が困難であると。3番目としまして、相撲で怪我をして会社の方に仕事に支障が出ては困るということがございました。議員さんの方から相撲競技というのは、格闘技なのでどうしても怪我はつきものということではありましたが、事業所としましては、1人でも欠けたら困るというのが現状でございまして、磁石場組合としましては、実施については慎重に対応しないといけないというふうには考えているところです。なお、経緯については、以上なんですけれども、今月磁石場組合の定例議会が開催されますので、その際に2番議員さんが言われました相撲場の活用についてもありましたので、それを含めて再度石場相撲大会についてもご意見を伺いたいと思っております。

〔10番 松永俊和君〕今、課長のお話だと今年もやはり稚児相撲だけでいく可能性もあるということですね。

〔今泉藤一郎議長〕商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕断言ではないんですけれども、稚児相撲、稚児土俵入りもですね、年々、令和5年からちょっとコロナ禍明けて開催したんですけれども、参加者の方が減ってきている状況ではあります。ですので、そのことも含めて協議はしたいと思ってます。

〔10番 松永俊和君〕わかりました。繰り返しになりますけれども、やはり相撲競技人口が減少で、相撲大会自体が難しいというふうになっていると。昨日というか、2日前の2番議員さんの提案であったような工夫をすればどうにか有田独自の文化と歴史の探訪コースになるのではないだろうか。また、他県ではない自然豊かな見どころ満載でお客様をもてなすことができる場所ではないかと思います。ぜひ観光促進策として実現をお願いしたいのですが、町長としての今後いかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、石場相撲場のことということでありました。石場相撲に関しましては、やはり私が小さい頃は外尾町の地区、私、外尾町ですが、神待相撲ということで、それぞれの地区で、私同級生が8人おりましたので、8人で相撲を取ったりしてそこで相撲という文化を慣れ親しんでき

ましたが、今、コロナ前、小学4年生の有小の子ども達が総合学習の中で取り組んだりという形はありましたけど、やはり小学生たちにそういう相撲という文化がないというところも一つ、石場相撲が縮小している原因でありますし、社会人に関しましては、先程課長が言ったように、やはり怪我をしてはいけないということで、相撲文化を大事にしたいという気持ちもありますが、じゃあ相撲をどうやってやっていくかということもあります。一つ、我々が危惧しているのが、スポーツ協会の中で以前、相撲協会がございましたが、相撲協会もスポーツ協会の中から外れておられますので、スポーツ協会の中で町民オリンピックの種目として、昔はありましたが、そういった経緯もあって相撲協会も抜けられている中で、我々行政が、行政がというか、行政だったり、磁石場組合の方が率先してこの時代の趨勢を見ながらするときにはどういう判断をしていくべきかなというのがちょっと危惧されます。もう一つの提案であります、石場を周回するというコースづくりに関しましては、いろいろなアイデアも出ますし、そこには安全性の担保とかいろいろ含みますが、ぜひ私も力を入れてやっていきたいと思います。やはり相撲が盛んだったという地域でございますので、相撲の歴史に何等か証明できるような取り組みとか、そういったことはやっていけるのではないかなと思っております。

〔10番 松永俊和君〕2番議員さんからのやはりいろんな提案がありましたけども、それを実際にかんがえて工夫すればできるんじゃないかと思っておりますのでぜひよろしくお願いします。それでは次の質問に移ります。佐賀銀行有田支店跡地と駐車場活用についてですが、令和6年度当初予算では文化交流施設基本計画業務委託で1,450万、業務委託をされましたが、6年の12月議会では50万に減額され、新たに札ノ辻周辺整備計画策定業務委託費2,000万という新たな予算を組まれました。札ノ辻地区の活性化推進策として、ランドデザインの、すみません、ランドデザインが以前発表されましたが、その中にありました図案で窯業大学、窯業大学じゃありません、すみません、佐賀銀行の、すみません、佐賀銀行跡地をこういうふうにご利用したらどうかという図案が出てきましたけども、それに沿った住民が安心して住み、お客様が気軽に利用できるように施設になるのか、また、札ノ辻周辺の計画整備とのランドデザインとのどのぐらいまで進んだのか、現状の状態と進捗をお聞きます。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕先程議員さんが申されました、有田内山ランドデザインですけど、これは基本的には目指す姿として、内山地区での暮らしやすさの実感と賑わいの創出に向けた方針と心地よい暮らしの実現と歩く魅力を体感できる内山、次世代へつなげる活力の創出を大きな柱とし

て前に進むという考えのもと、有田内山その先へというビジョンを掲げ、目指すまちの姿の実現に向けて取り組むというふうにされております。また、札ノ辻周辺の必要な機能として体感できる、見学できる、案内できる、回遊できる、交流できる、起業できるの6つの機能が必要であるというふうにされております。現在、佐賀銀行有田支店跡地につきましては、昨年度行ったサウディング型市場調査の提案内容を整理して有田内山デザインの策定時に関わった専門家の方で構成しています内山グランドデザイン検討委員会、開発構想専門部会の方で協議を行っております。その中で内山グランドデザインをもとに札ノ辻交差点周辺の今後の整備について具体化するような整備計画が必要との意見が出されております。佐賀銀行有田支店跡地につきましては、ご存じのとおり、隣接する町道の幅が幅員が狭く用地には高低差がございます。このため、土地利用には様々な工夫が必要かと思われます。また、今行われてます無電柱化の終点に位置するため、この無電柱化の終点の電柱の方をどこかに立てるという問題点もございます。また、有田町公共施設等管理計画では、町の財政的な負担軽減のために公共施設の維持管理費を抑えることが求められております。このため、公的な負担を最小限にしながら継続的に賑わいを創出する場にするためには、公民連携の視点を重要視する必要があるというふうに考えております。この点を踏まえて、現在、公民連携の可能性の調査及び具体的な整備内容の決定に向けた形でプロポーザルをする予定で今進めております。

〔10番 松永俊和君〕今、課長が説明ありましたように、昨年12月に札ノ辻周辺事業計画という事業が立ち上がって、それに対して私が危惧したのがやはり前作ったグランドデザインをどういうふうにするのか、やっぱり全然違うことはないと思うんだけど、どうだろうかというふうなものも感じましてこういう質問もしてますけども。やはり一番言えるのは、それをグランドデザインを作るのにも何年かかかりましたから、無駄にならないような内容になるのかなと思いつつながら今、先程課長の答弁を聞きまして、少しは安心しました。ただ、グランドデザインを検討委員会のメンバーがまた参加されるっていうのならなおさらのことですね、良いんじゃないかと思えます。ただ、町民さんにしてみればこれはマイナスな意見じゃないとは思いますが、現状のままの利用の仕方でもいいんじゃないかという人もいらっしゃるのも確かです。ただ、いろんな考え、もちろん住民の人たちが喜ぶようなものを作っていきたいとなるとなかなかそのデザインを発表するというのは難しいかと思いますが、町長もうぼちぼちですね、ある程度の内容、またこういうふうにしたいとか、そういう展望を町民さんに示す時期じゃないでしょうか。いかがでしょう。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、議員ご指摘の件ですけど、有田内山グランドデザインのダイジェスト版というものでしておりますので、町民の声とか、外部の有識者の声も十分この中に詰まっております。それをどうやって今から運営していくというのがポイントであります。片方では何もしない方がいい、片方では急いで作ってくれ、片方ではもう少し、もう少し考えた方がいいってということもいっぱいありますので、あまり聞きすぎてちょっと動けないっていう状況になるのはいけないと思っておりますが、やはり私は今回常々申しておりますが、今回の内山グランドデザインに関しましては、有田町内山地区の100年の計にあたると思うぐらい大事なことです。これを機に有田町全体の昨日もあったかもしれませんが、やはり東の泉山からスタートして、岳の棚田の東西と、全部ウイングを広げてでもあそこが起爆剤になるような整備計画を立てたいと思っております。先程、まちづくりの課長から答弁あったように、やはりここはいろんな先生たちの意見も聞きながらというところであります。これをやはり行政がやってしまうということに私はちょっと危惧を持っているので、そこは民間の活力を生かしながらということで今そういう条件をどうやってやったらできるかというところの研究をやってもらっておりますので、その準備がしっかりできましたらこれだけではございませんが、ここに詰められたエッセンスをどうやって展開するかということに注力を注ぎながら100年後の有田の人に、そしてまた今後お見え頂くであろう関係人口の皆様、そしてインバウンドの皆様に惚れて頂けるようなまちづくりを、我々のスパン、私もよく言われます、町民の皆さんから、早うせろと。でも、これを早くすることによって中途半端になるよりは、1年私が怒られながらもしっかりと議論した方が私は素晴らしい100年、150年と続く、あの通りになると思いますので、今回いろいろお叱りもあるのは重々承知の上で今回はそういう形で今後の計画として進めさせて頂きたいと思います。

〔10番 松永俊和君〕ぜひともみんなに、全員に満足されるのは難しいと思いますけども、できるだけ早くですね、意見をまとめて、やはり町長がするっと言わんことには何も始まりませんのでよろしくお願いします。それで、次に提案ですけどもね、私がちょっと先ほど言いました内山地区のグランドデザインの中で佐賀大学生が書いた図面を見ながらちょっと、ちょうどよく似たようなところがあったもんですから、これはこの計画のこの図面はいくらなんでも有田町にそのまま推し進めるというのはまず難しいでしょうけど、これを参考にしながらこれをコンパクトに財政課長が言うように、コンパクトに作ればいいなと思っています。この中にはやはりちょっと皆さんに説明しますけども、これはみやき町にある市村記念メディカルコミュニティセンターと

いうものであって、アンテナショップや中庭、屋外交流スペース、レストラン、フードコート、障害者の支援施設、地域包括支援センター、シアタールーム、リラックスルーム、薬局などを備えて、別棟にプール施設があるものです。これはすごいお金がかかってますけども、場所もたくさん要りますけども。こういう施設が有田にできればいいなという話をしてましたら、これは駅前の方に作ってくれた方がいいんじゃないかという方もいらっしゃいました。こういう皆で使える、そのほかにですね、なかにですね、2階にはトレーニングジム、貸しスタジオ、整骨院、はりきゅう、アロマエステ、健康教室、貸会議室、診療室などがいっぱい入っております。ただ規模的にはすごい大きい建物じゃなくて、結構コンパクトにできてますけども。こういう施設があそこの駅前にできたらすごい良いんじゃないかなと。これは、有田の佐賀銀行跡地にもうちょっとコンパクトでこういうのができないかなと思いつつながら言ったんですけども。よくよく考えたらちょっと場所が狭いですけども。有田の駅前をやはり活性化するにはこういう施設を駅前の辺りにもちろんその有田の前のほんまち保育園の跡地などを利用してそういうのを作って頂ければすごい夢溢れるみんなが集える場所ができるんじゃないかと思いました。ただ、このメディカルセンターの中では、一応、各、毎月マルシェがあつてます。それでこういうに1月のイベント、2月のイベント、それで3月のイベントとこういうふうに、それで、この中に協力業者が58社もいるんです。入れ替わり立ち替わりいろんなことをやっていらっしゃいます。そうするとお客さんも飽きもこないし、また、来るのが楽しいということでやってらっしゃいますけども、こういう施設をできればいいなと思いつつながら皆さんにちょっと資料として出しました。ぜひ皆さんが、わあ作ってくれてよかったなというような施設をできるだけ早く立ち上げて頂いて、内山地区の活性化、有田駅前の活性化をよろしく願いして私の一般質問を終わります。

〔今泉藤一郎議長〕10番議員 松永俊和君の一般質問が終わりました。10分間休憩いたします。
再開を13時55分といたします。

【休憩13:44】

【再開13:55】

〔今泉藤一郎議長〕再開します。11番議員 蒲原多三男君。

〔11番 蒲原多三男君〕それでは議長の許可を頂きましたので、11番 蒲原多三男、皆様方もお待ちかねじゃないでしょうけど、令和6年度最後の一般質問をさせていただきます。本日は、GIGAスクール端末タブレットの更新について伺います。GIGAスクール構想は、2019年12

月に文科省が補正予算を計上したことに始まり、児童生徒に1人1台の端末を配備し、個別最適な学びをICT端末を活用して実現していく構想です。翌2020年の新型コロナウイルス感染拡大に伴って子どもたちの学びの機会を守るために、急速に普及し、昨年8月の時点、ちょっと古いですが、昨年8月の時点でGIGAスクール端末は全国で950万台となっております。今後、これらの端末が順次更新時期を迎えていきます。GIGA第2期では、政府の負担で都道府県に基金を創設し、これを原則として都道府県ごとの共通仕様書を元に共同調達することとなり、調達の大型化と予想されます。また、MM総研が公表した2024年8月時点のGIGAスクール構想実現に向けたICT環境整備調査によると、端末更新の68%は2025年、今年ですけれども、集中するとの見方もあります。先程言いましたMM総研とは、デジタルセールス&マーケティングの専門企業として、デジタルマーケティング営業、DXコンサルティング、デジタルセールス人材採用と3つの事業を展開している東京港区の企業です。そこでまず伺います。我が町における今年度以降、来年度以降も含めてですが、何台程度を新端末に買い替え、旧端末を処分することになるか、リースがあれば新規リース返納台数は、また、端末処分とデータ消去に対する認識をまず伺いたいと思いますがいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 学校教育課長。

〔福山学校教育課長〕 それではお答えをさせていただきます。現在、町内の小中学校の端末につきましては、1,620台を整備をしているところでございます。更新時期につきましては、令和9年度、更新する機器は同じ機器のクロームブックを予定しております。台数につきましては、令和9年度の児童生徒の予定数でございます1,400台、これに予備機として15%の相当の200台を加えた1,600台を予定しております。また、更新の方法につきましては、リースではなく、全数ですね、購入での導入を予定しております。処分については、現在ある1,600台をどうするのか、再使用とか処分とかございますけれど、それは今のところは決定はしておりません。処分の際のデータ消去につきましては、これは確実にやる必要があるというふうには認識しております。

〔11番 蒲原多三男君〕 一般社団法人産業管理協会リサイクルデータブック2023によりますと、国内では、年間1,000万台のパソコンの処分、需要がある反面、リユースしたとき等の名目で回収後、経済合理性を優先した処理で約4割が海外等へ輸出され、不適正な処理が多発、国際問題化しております。2025年今年1月以降、国際条約、バーゼル条約の改定により政府間合意がない限り輸出は原則禁止されます。ここで次の質問に移りますが、使用端末の再使用または

再資源化について法律を順守した対応が求められます。使用済端末にはレアメタル等の有用な金属が多く含まれ都市鉱山とも呼ばれる程です。我が国における金属資源の枯渇リスク対応等の観点から、GIGAスクール構想のもとで整備された端末を含めた使用済端末の適正な再資源化を推進することが必要であると環境省の通知でも言われております。このことにつきましては、どのように対応されているか、また、対応されるつもりかをお尋ねいたしたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕 学校教育課長。

〔福山学校教育課長〕 現時点での現在あるこのクロームブックの処分方法につきましては、先程申しましたけれども、処分の方法とその数量についてはまだ規定はしておりません。処分する端末につきましては、新規端末の更新での新規購入端末を納入する業者ですね、こちらの方において法令に基づいて適切な処分手続き等をして頂く予定としております。再使用する端末につきましては、現在のところ町内の学校だけでの利用を予定としております。続きまして、使わなくなった端末の適切なデータ消去と端末の処分については、確実に行う必要があるというふうには認識しております。処分の際には小型家電リサイクル法に基づく認定業者にこの本体、ハードに残っているIDとかパスワード、写真等の消去を行った上で再資源化を委託する予定でございます。端末の処分方法については国からの指示に則りまして、小型家電リサイクル法認定業者による適正な処分を取れる体制、端末データ消去の証明書を提出できる体制、それからデータ消去証明書については、最低限基準に則った体制、この3つの体制を事前に委託業者に提示することとされていますのでこれに沿った対応をしていく予定でございます。

〔11番 蒲原多三男君〕 現在におきましては、データ消去が適切にされず個人情報漏洩等の責任を問われる可能性があるとして文科省、経産省、環境省の三省合同通知でも言われております。例えば、今、課長の方からちゃんと処分されているとのことでありましたけれども、例えば、写真に自宅の位置情報が保存されていたり、いじめ相談のアプリの履歴が残っていたりなどの閲覧履歴やパスワード情報が端末にそのままの可能性があって、単純な物理破壊ではデータの復元が可能であり、専用ソフトでの処理で確実にデータを消去しなければなりません。専用ソフトでの処理で確実に消去しなければ子どもたちの個人情報の流出につながりかねないという恐れもあります。重ねてお尋ねしますが、情報の漏洩がないことを常に念頭に置きながら処分されていると思いますが、確認の意味で再度お尋ねをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕 学校教育課長。

〔福山学校教育課長〕 先程いくらか申しましたけれども、処分につきましては、今後実施をしていく

というふうなところでございます。確実な実施につきましては、先程言いました、国からの指示に則りまして、このデータ消去の証明書を提出して頂いて、それによって確認をしていくということが必要になってくるのかなと思いますのでそういった対応をしていきたいというふうに思っております。

〔11番 蒲原多三男君〕今まで申しましたように、端末の処分にあたっては十分な配慮がなされなくてはなりません。使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律、それが先程課長も申されました、小型家電リサイクル法と呼びます。この法によって国の認定を受けた再資源化業者と連携する対応が求められております。データが適切に実施されず個人情報漏洩等の責任を問われることが生じないような対策が行われているか。また、認定事業者は町が関連しているのが何社あるのか、何社に依頼されているのか、具体的固有名詞は要りませんが、お尋ねしたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕学校教育課長。

〔福山学校教育課長〕小型家電リサイクル法に基づく、この認定業者につきましては、令和7年1月末現在で全国に60事業者が認定をされておりまして、うち佐賀県を収集区域としている事業者は9社ございます。有田町では、連携協力事業者であるこの9社の中にあります、リネットジャパンリサイクル株式会社というところが、これは多分個人向けだと思いますけど、個人に向けた宅配便により回収が行われている状況でございます。GIGAスクール事業で購入した本町の端末の処分につきましては、先程お話ししたとおり、更新で新規購入端末を納入する業者において、処分手続き等までをして頂くこととしておりますけれども、その際には、この小型家電リサイクル法に基づく認定業者による適正な処分をして頂くということになるというふうに考えております。

〔11番 蒲原多三男君〕ありがとうございます。スクール端末の処分委託及びデータ消去等の処置などが適切に行われないことで、首長が謝罪せざるを得なかった事例や学校のデータがネットに流出した事案やまたデータ消去の正しい認識がない事業者に処分を委託し、情報漏洩したことも現実には起こっています。具体的な県地名は今、公にはなっておりますが、言いませんが、2019年12月、昨年4月、8月に今申したようなことが起こっております。今日の質問の中には学校のGIGAスクールについてお尋ねしましたが、町のパソコンタブレットも関連してくると思いますが、今、申し述べたことについての町長のご認識がありましたらお尋ねしたいと思えます。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今議員からご質問の件でございますが、やはりデータ流出というのは絶対あってはいけないことだとそれは強く認識しております。大人もそうですが、今、GIGAスクールということでございますので、1人1台端末を子どもたちの学びにおいて重要なツールであります。安全安心に使用できるツールでなければならないということを担保するためには、確実にデータ流出がないということが必要だと思っております。データ処理はですね、更新で新規に端末を納入する業者で確実に処分手続き、データ消去を行ってもらうよう強く訴えて、私もお願いしますし、教育長はじめもうしっかりとそこは伝えていきたいと思います。今、全体的な話になりますと、映画でもスマホを落としただけなのにとかなんかというタイトルの、本当にそのことによっていろんな被害が出てくるというのは、私たちが普段自分で個人的に使っているパソコンも同じようなこともありますので、そういうことが絶対ないようにするって、私も謝ることがないようについていくことだけではなくてですね、本当にそういう強い思いでおもっておりますので、ぜひその辺のGIGAスクールで使った端末に関してのデータ消去っていうのは、確実に行ってもらえるように業者が決まりましたら声を伝えていきたいと思っております。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕すみません、庁舎の端末の方はまちづくり課の方で管理しております。庁舎の端末につきましてのデータ消去ですけど、これに関しましては、まずは、処分する前に、まちづくり課の職員の方で無意味なデータを全部右に書き込むという作業を行っております。本来消去といってもですね、通常の消去ではデータが消えませんので、消えないために、無意味なデータを全域に書き込んでいるという方法で、データを完全に無効化した上で業者の方に引き渡しております。それとまた、GIGAスクール構想で導入しておりますクロームブックにつきましては、基本的に全データ、クラウド上でございます。なので、端末に残っているのはほぼほぼIDぐらいしか残っていないのが現状なので、万が一、端末のストレージからですね、流出が起こったとしてもほぼほぼ無意味なデータしかないという状況になっています。

〔11番 蒲原多三男君〕今までの中で町もされたかもしれませんが、一般町民の方々にも呼びかけといいますか、私も1台何百円、何千円かかるか知りませんが、安い、無料でと引き取るだけ引き取って、悪用されるということもありますので、これは町、学校ばかりでなくて、私たち一町民も今後注意していくべき課題だと思いますが、一度そういう呼びかけ注意をして頂きたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。どなたでも結構です。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、全体的なお話ということで、ホームページに載せるとかですね、回覧板で回すとか、

3月ちょっと4月が一番そういう買い替えの時期かもしれませんが、ちょっとそれに間に合うかわかりませんが、そういった重々、危険であるというか、そういった案内は必要だと思いますのでできる限りの対応をしたいと思います。

〔11番 蒲原多三男君〕よろしくお願いいたします。先に述べましたようにGIGAスクール端末の処分にあたりましては、法令を遵守した適切な認定事業者への委託及びデータ消去等がしっかりと行われることが極めて重要であります。2025年、26年は、更新が多いと言われますが、必要な予算措置を行うことがまた伴ってまいります、このことについてのご見解もお尋ねしたいと思いますがいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕学校教育課長。

〔福山学校教育課長〕更新を予定している令和9年度において、この予算措置をする予定としております。端末の処分にかかる費用についても、この更新で購入する費用の中に含める予定としておりますので、予算面でもデータ流出がないよう取り組んでいきたいというふうに思っております。

〔11番 蒲原多三男君〕よろしくお願いいたします。今後とも各部局の皆さんが更新や処分について連携を深め取り組んで頂くことをお願いして私の本日の一般質問を終わります。ありがとうございました。

〔今泉藤一郎議長〕11番議員 蒲原多三男君の一般質問が終わりました。以上で、本日の日程は全て終了いたしました。本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

【散会 14：14】